

藤田医科大学医療科学部の学生が発案した 大学講義発の SNS児童性被害防止アプリ「コドママ」 がリリース

2021年度の医療科学部の講義から始まった社会課題解決のプロジェクトは、大学の授業の中で学生たちが「SNSを通じた児童の性被害」という社会問題の解決のためにアイデアを出し合うという新しい取り組みでした。学生たちのアイデアが、スマホアプリとして具現化し、試作版のテスト等の製品化へも参画するなどして、2023年3月ついにリリースされました。

■ 開発の背景

児童による性的な自撮り被害が増えるなか、愛知県警が2021年秋にSNS性被害防止の対策について、東海地区の17大学で構成する若手起業家育成プロジェクト「Tongali」に相談。同プロジェクトに参画している本学が賛同し、起業家教育を推進している産官学連携推進センターの村川修一准教授が2021年12月の医療科学部における社会課題解決の講義として、SNS性被害防止をテーマにアイデアを出し合うワークショップを実施しました。

その中で、アプリ実装という案が挙がり、本学の富田直人客員講師が代表取締役を務めるスマートブックス株式会社の協力のもと開発が進められました。



■ 仕様検討・製品テスト



開発されたアプリ「コドママ」は、子どものわいせつな自撮り画像をAIで検知し、削除する仕様です。サーバー等へ接続する必要がなく、スマホ内で消去されるため、画像がどこかに保存されることもありません。学生たちは、このような仕様検討や、わいせつ画像とそうでないものが正しく判断されるか等の動作確認作業へも携わり、製品化に参画してきました。

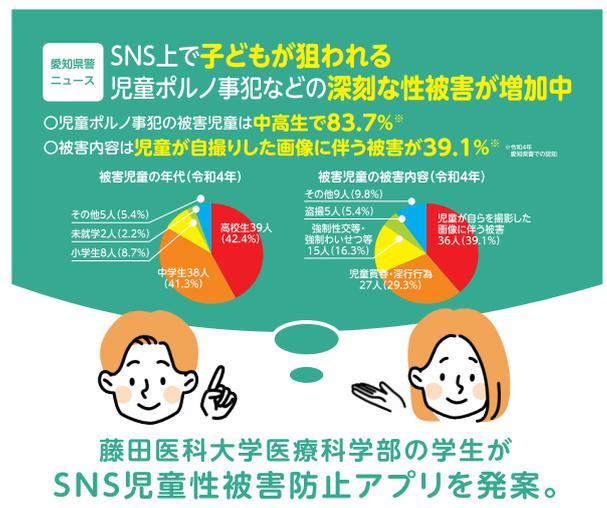
■ 社会からの反響

大学講義から製品が生まれる新規性と、SNSでの児童の性的な自撮りによるトラブルという社会的な関心の高さから本取り組みは多くの新聞・テレビで取り上げられ、2023年3月に米ニューヨークの国連本部で開かれた「女性の地位委員会 (CSW)」でも紹介されました。また、この取り組みの社会貢献度の高さから、プロジェクトを推進した本学産官学連携推進センター 村川修一准教授へ愛知県警本部より感謝状が贈呈されました。

2023年7月には、愛知県長久手市で同市内の中学生を対象に「コドママ」を使用した実証実験が始まっています。



感謝状を持つ村川准教授(中央)とスマートブックス富田社長(右)



コドママのチラシは、愛知県内の携帯ショップ全店に設置されました